



「桐生の白糸姫は、こんなふうに」と清水じゅたん（東京都渋谷区、王朝文化の女房装束も展示されている「あやめの藝術館」）

年百生桐相都織

特集 織都 1300年

別刷

13面

清水ともさんと聞く
桐生織物・後藤隆造理事長インタビュー
産地の今を体験・見学 施設・工場など紹介
関係者祝辞
記念行事に参加しました

日本の機械工場、桐生はさかなか古代から連綿と織物の産地であり続けて今年、織都1300年の大きな節目を迎えた。新しい時代に向けて、清水ときさんによると、登場いただいた。戦後きもの界をリードして来た、日本を代表するきもの人々だ。90歳になつたいまも現役で、学校法人清水学園や国際文化きもの学会理事長など多くの要職に就く。それも70年間365日きものでこなしている。桐生との縁も深く、長年にわたる知己が多い。桐生産地の歴史、伝統と新しい技術、そして国際化が加速するいま、日本人としての誇りはもうあつたらしくないのか。

桐生の新時代に向けて

90歳なお現役 清水ともさん（国際文化きもの）に聞く

「織都一三〇〇年、おめで
とうございます。すごい歴
史ですね」細かい藍色の矢
絣のお召に、細帯を立て矢
くずしに結んだいでたちの
清水さん。「黒、紫、藍の3色
が好き」というはつきりし
た好みによる、かうやかで
華を秘めた姿である。

ところで、その方に感心した
帝(みかど)から姫を娶(め
すよ)

十一單は女房装束、正装で
身分による服装の色や
形、着方の細かい規定が定
まるのは、養老の「衣服令
(えいぎれいりょう)」から。そ
れ以前の和銅7(714)
年、「續日本紀(しおへいほ
んき)」に上野国から朝廷に
よかつたねえ」と笑みが返
る。

中世一三三三年第、いく
さ場の旗とは思えないほ
ど、細い糸で織細に織らわ
ていた。「地機で織つたもの
でしょ。荒い、太いものでは
ないのね。すごいわね」牛
人の技にみすみすしに感動

「圖11」は程度の高い統合日本紀の時代から

一概性に付属を行つて
います。機織り姫がいる神
社があるでしょ、そう白瀧
神社。一番先に行つて、お参
りしたわ。60年前よ。伝説
の白瀧姫をまつる、川内町
五丁目の白瀧神社のこと
が。

「歌、ロマンス、古くてい
い物語ね。織物にはいろいろ
な伝説がありますが、桐生
の白瀧姫は有名よ。ほか
も違うもの」清水さん。十
二車(ひじえ)をまついた織
姫は、桐生の白瀧姫ださう
です。

「あしうみ」が和じて綺み
を出す

近世には「徳川家康の闘
ケ原の合戦」にも、桐生から
旗絹を献上したのね。慶長
5(1600)年のこと。1
夜にして2410疋が天満
宮の境内に集められ、広沢
の参道屋敷かつねや、吉永

桐生から京に上った山田
水さん。新田義貞が鎌倉攻
献上。桐生は戦勝の「御吉例
地」として新政権の庇護(ひ
ご)を受けることになり、新
しい技術を取り入れて飛躍
してぐる。(2面に続く)

地産の日本がつながる事業記念百年三千生桐都織～

2014桐生テキスタイルプロモーションショーアート展
10月23日(木)～27日(月) 午前10時～午後4時
桐生織物会館 2階

桐生織物協同組合（一財）桐生織物會館
理事長 藤後一隆 造

～織都桐生千三百 年記念事業～	
1300人で織りつなぐ手織り体験	(織物資料展示室で開催中)
桐生市内散策クイズラリー	(織物資料展示室で開催中)
1300年記念セール	(桐生織物販売場で開催中)

桐生織物記念館
〒376-0044 桐生市永楽町6番6号